

事例編

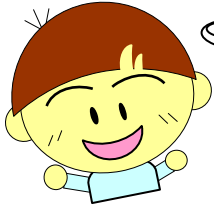
事例 1

チャレンジ 1

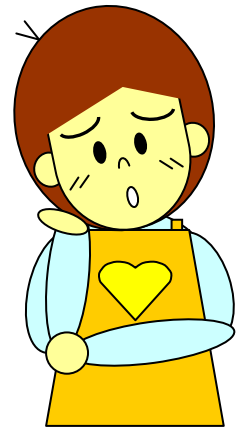
取り組む行動を決める！

Eくん
5歳5ヶ月

- ちょっと気になることは…
- ・何でも一番でないと泣いてできなくなる。
 - ・見られたり、身体がふれただけで、たたく、押す、つねる。
 - ・食事の好き嫌が多い。
 - ・寝起きが悪い。
 - ・無理にギャフをする。



- ほくのできていることは…
- 機嫌がいいときは
- ・好きな友達と2人組で手をつないだりペアで遊ぶことができる。
 - ・ルールのある遊びもルールを理解して遊ぶことができる。
 - ・少しがまんできるようになった。



一番気になることは…

E君は「何でも一番でないと泣いてできなくなる」こと。
どうすれば、泣かずに我慢できるようになるかしら…。



チャレンジ 2

行動のABCを観察し、記録する！

ある日のEくんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児:Eくん 担任:S先生 パート:T先生】

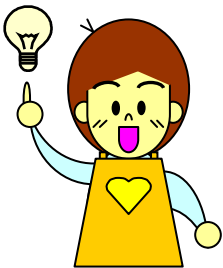
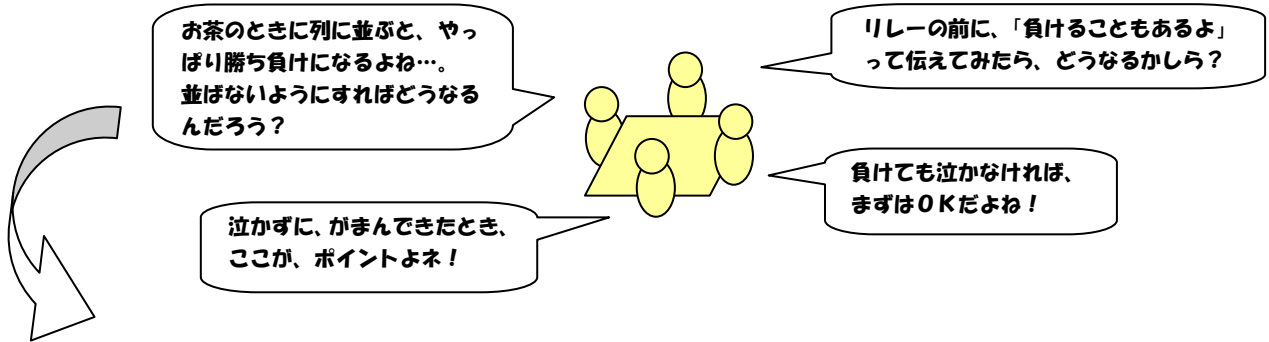
行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
〔教室・朝・入室後お茶を飲む〕 いつもより遅い登所(9:40) 他児：お茶をいれてもらうために先生の前に並んでいる	お茶をいれてもらうために順番に並ぶが「1番がいい！」と言って部屋を出て行く(いつものクールダウンの場所)	S先生：少し間をおいて、本児を迎えに行く。
〔教室・午前・設定保育〕 6人組で3チーム対抗のリレーが始まる リレーをし、負けて3位になる。 " ←	「負けたくなかった。1番がよかった」とその場を離れ隣の部屋(3才児室)で泣く。 「負けるもん…」といいながらも部屋へ戻る。	T先生：「負けても次のゲームで勝ったらいいねん」
2回目のリレーをし、また負ける。 " ←	「また負けた」隣の部屋で泣く。 チームの友だちと部屋へもどる。	T先生と同じチームの友だちで迎えに行く。 T先生：「負けてくやしいのはこの子達もいっしょ、Eくんだけじゃないよ」



チャレンジ 3

記録をもとに支援を考える！

支援のアイデアを話し合っ、具体的な支援方法(かかわり方)を考えました。



こんな支援(かかわり)をしてみることになりました！！

- ・お茶をもらうときは、順番に並ぶのではなく、机の自分の席に座って待つ。お茶は先生が、机をまわって入れる。
- ・泣かずに待つことができたなら、好きな先生の前で、ごほうびカードに自分で○をつける。
- ・ゲームや競争のときは、事前に負けることもあることを予告し、負けても泣かずにいられたら、そのことをほめる。



チャレンジ 4

支援を実施し、支援を振り返る！

支援を始めた後、ある日のEくんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児:Eくん 担任:S先生】

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[教室・夕方・自由遊び] Eくん対主任でスゴロクをする。 主任:主任が優勢になってきたところで「先生かちそうやけど、Eくん負けたら泣くんとかう？」と事前に言う。	スゴロクに負けるが、ガマンして泣かなかった。	主任:「Eくんすごいね！ガマンできたね！先生びっくりしたわ。すごい！すごい！」
[教室・夕方・自由遊び] S先生対Eくんでスゴロクをする。 S先生:Eくんに勝つ。 主任:「この間Eくん負けても泣かんかったよ」	負けて残念！という顔をしたが、ガマンできた。	主任:「ほ～らね。すごいでしょ」 S先生:「ほんとやEくんえらいね」

かかわり方をかえると、こんな場面が見られました！！

お茶のとき…自分の席で待つと、順番が気にならないのか、「一番がいい」と言わなくなった。

ゲーム、競争のとき…負けそうなときに事前に予告しておく、がまんできるようになった。

二番もOK…ということが少しずつ分かってきた。



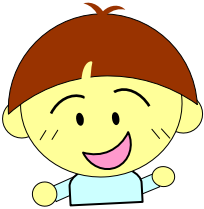
事例2

チャレンジ 1

取り組む行動を決める！

Fくん

3歳10ヶ月



ちょっと気になることは…

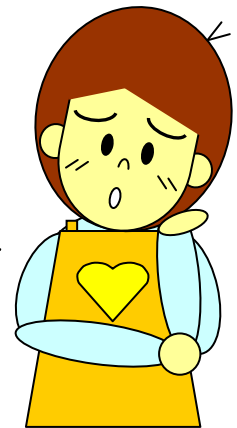
- ・部屋から飛び出し、素足で戸外や他の部屋へ行く。
- ・0歳児を見ると力まかせに押ししたり叩いたりする。
- ・生活リズムが整いにくく、日々、コンディションに波があり、自分の思いが通じにくいときは拒絶する場合がある。
- ・集団への関心は薄く、友達とのかかわりも好まず、対大人との関係が続いている。

ほくのできていることは…

- ・排尿感覚は一定していないが昼寝起きには男児便器で排泄ができる。
- ・気分が和やかなときは、衣服の着脱や靴、靴下等の着脱が一人でできる。
- ・食事の準備、片付けができる。

一番気になることは…

F君が「部屋から飛び出し、園庭や他の部屋へ行く」こと。
部屋から飛び出さずに過ごすために、何か支援はできないかしら…。



チャレンジ 2

行動のABCを観察し、記録する！

ある日のFくんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児:Fくん パート:U先生】

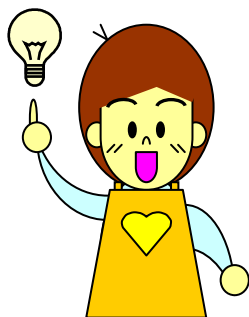
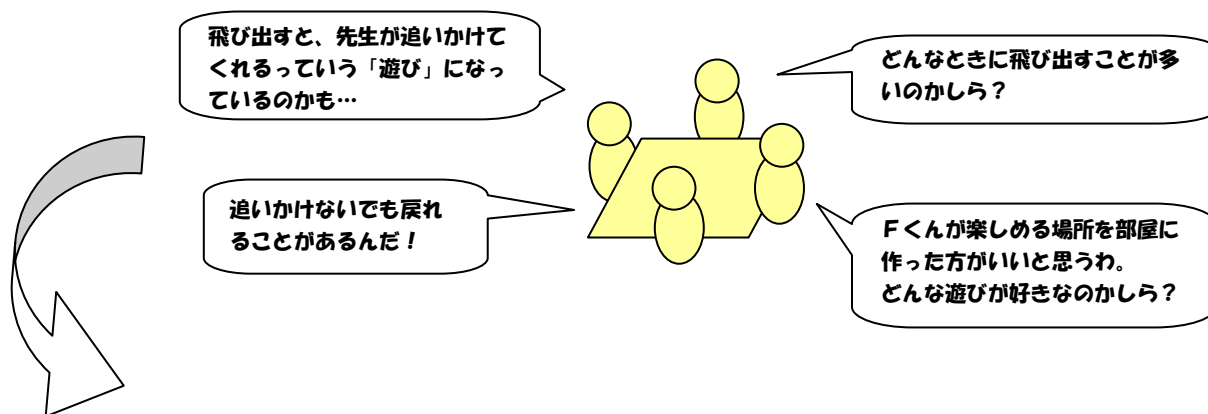
行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[教室・給食後] U先生:「Fくんパジャマに着替えよか？」 "	部屋を飛び出し、0歳児室前まで行く。 笑顔で逃げる。	U先生:「Fくん帰っておいで！」と言って、追いかける。
[教室・給食後] U先生:他の用事をしている。 "	部屋を飛び出し0歳児室前まで行く。 少しすると笑いながら戻ってくる。	U先生:「Fくん、先生待ってるから帰って来てね」と見守る。 U先生:「Fくん、おかえり」と言い、戻ってきたことをほめる。
"	嬉しそうに笑う。	



チャレンジ 3

記録をもとに支援を考える！

支援のアイデアを話し合っ、具体的な支援方法（かかわり方）を考えました。



こんな支援（かかわり）をしてみることになりました！！

- ・保育会議で本児の行動について伝え、0歳～2歳児担当の支援協力を依頼する。
- ・3歳児保育室のダンスを室外に出し本児のコーナーを作る。
- ・本児の好きな遊びを集め、落ちついて（集中して）遊べるおもちゃ等を探る。
- ・室外へ出て行った後は追いかけて戻って来るまで待ち、戻って来たときにはほめる。



チャレンジ 4

支援を実施し、支援を振り返る！

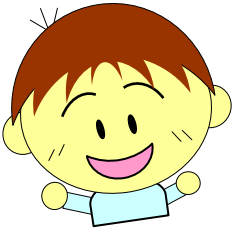
かかわり方を変えると、こんな場面が見られました！！

- ・好んで入室していた0歳児室での受け入れを歓迎方式から、あまりかまわず放置する、又は、室外へ促すと短時間で出て行き自室へ戻ってくることができた。
- ・担当保育士が他の仕事をするときには、本児が落ちつくコーナーへ誘い、好きな遊びを揃えると集中して遊ぶ時間が増えてきた。



取り組む行動を決める！

Gくん
5歳2ヶ月

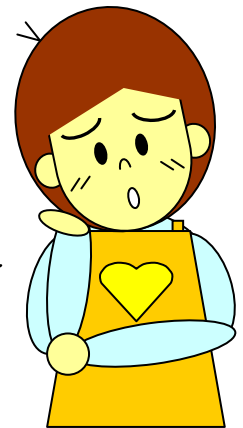


ちょっと気になることは…

- ・設定保育中…保育士が全体に話しているとき、大声で何か言ったり、いすの背もたれに座ったりする。みんながうたっているとき、ウロウロする。
- ・食事中…いすにきちんと座れない。手づかみで食べる。汁を手のひらにうつして飲む。わかめなど机や自分の手にはりつけたりする。
- ・午睡時…なかなか寝ない。大きな声を出す。
- ・自由遊び…やりたい遊びがみつからず、ウロウロするか、三段ボックスの上で寝転んだりする。自分より弱そうな女児にちょっかいをかける。
- ・一日を通してよく聞かれる言葉…バカ、ジジイ、来るな！！、あそんだらへん、ボケ、ウルサイ…など、暴言を言う。

ほくのできていることは…

- ・身のまわりのことは、側で促すとできる。



一番気になることは…

「一日に何度も暴言(バカ、ジジイ、ボケなど)を言う」こと。
バカ、ジジイ、ボケって言わないようになってほしいけど…。



行動のABCを観察し、記録する！

ある日のGくんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児：Gくん 担任：W先生】

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
〔調理室・朝・自由遊び〕 他児：園庭で遊んでいる	特に何をして遊ぶでもなく、ウロウロしている。 ↓ 調理室をのぞきに行き、ドアをあけて「ボケー」と言う。	W先生：「『ぼけ』じゃないよ！！『おはよう』っていうねん」
〃	無言で走って逃げて、遠くから様子をうかがっている。 すきを見ては、調理室に行き「ボケ、じじい」と言う。	調理士：「ボケですよー」と笑って言う。
〃	何も言わずに走っていく。	



チャレンジ 3

記録をもとに支援を考える！

支援のアイデアを話し合っ、具体的な支援方法(かかわり方)を考えました。

「ボケー」が、コミュニケーション
になっているのかも？

何をしたいかわからない
ときのメッセージかも…

場面をしぼって、少しずつその場にあった言葉
を教えてあげられるといいよね。毎日、調理
室で「ボケー」っていうなら、まずは、そ
こでのあいさつからでもいいよね。

言うべき言葉の見本があったり、側で教
えてくれる人がいるといいんじゃない。

こんな支援(かかわり)をしてみることにしました！！

- ・毎朝、主任又は、担任と一緒に調理室にあいさつに行く。
- ・担任、パート保育士、主任から、毎朝「おはよう」と声をかける。
- ・パート保育士が見守り、本児が困ったとき、援助が必要なときに、しっかりと話をきき、援助する。
- ・対人関係の中で必要な言葉やあいさつなど簡潔に本児に伝える。



チャレンジ 4

支援を実施し、支援を振り返る！

支援を始めた後、ある日のGくんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児：Gくん 担任：W先生 パート：Y先生、S先生】

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
〔教室・午睡時〕	なかなか寝つけず、Y先生、S先生に「アホー、ボケー、あそんだらへん」とくり返し、叩きに行く。	Y先生：真剣な顔で怒る。
〃	Y先生を力まかせに何度も叩き止めない。	W先生：一度外へ出しあやまるように話す。
〃	W先生と一緒に促されて「返してください(タオル)」「ごめんね」と言う。	W先生：「そうやね(あやまったことを認める)。Y先生に用があるときは『アホ、ボケ』じゃないよ。『Y先生』ってポンポンするの」とGの手を持って「Y先生」と言いながらYの肩と一緒にポンポンすることを繰り返す。
〃	W先生に手を持たれて、Y先生の肩をポンポンする。	Y先生：「はあーい。なあーに？」と返事をする(肩を叩くたびに繰り返す)。
午睡後	「Y先生」「Y先生」と何度も言う。	Y先生：「はあーい。なあーに？」と返事をする。
〃	「おしっこー」と要求を伝える。	Y先生：「トイレやね！！行っておいで」と返す。

かかわり方を変えると、こんな場面が見られました！！

- ・調理室でバカ、ジジイなどと言わずにあいさつができるようになり、最近では「今日のご飯何？」と聞くようになった。
- ・バカ、ジジイなどの暴言は、大幅に少なくなった(一日に1~2回、言わない日もある)。
- ・パート保育士に対して本児から要求などを(短い言葉ではあるが)伝えるようになった。
…「○○せんせ、おしっこ」「ママ来た。さようなら」
- ・他児に対して大きな声で「よして」と言って、遊びの輪の中に入ろうとする。
…同じ遊具を使った並行遊びである。
- ・設定保育、特にリズム遊びで、みんなの中に入って一緒にしようとするときもある。



取り組む行動を決める！

Hちゃん
5歳7ヶ月

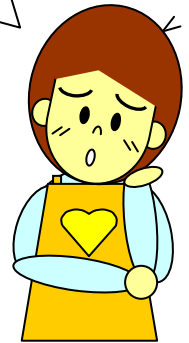


ちょっと気になることは…

- ・日常生活の流れの中で、イレギュラーな活動が入ったり、突発的な出来事が生じた際に動揺し、活動が上手く行えなくなる（設定内容が変化することには支障はない）。
- ・自由に形を描いたり、貼りつけたりする課題に対して、形を決められなかったり、場所をなかなか決められない（但し、色を自由に選ぶことはできる。好きな色が水色で、よく選んでいる）。
- ・給食の配膳の際、配られた品数（食器）が多くなると、自分が配ろうとしている種類のものを、どこへ配れば良いのか分かりにくくなる。

わたしのできていることは…

- ・日常における基本的な生活習慣については、自立できている。



一番気になることは…

「日常生活の流れの中で、イレギュラーな活動が入ったり、突発的な出来事が生じた際に動揺し、活動が止まってしまう」こと。

困ったり、動揺したときに自分から伝えられるようになってほしいけど…。

行動のABCを観察し、記録する！

ある日のHちゃんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児:Hちゃん 担任:T先生 主任:U先生】

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[教室・午睡前の着替え] T先生:(全員に向けて)「今日はコップを洗ったら自分でいつも先生が片付けているあの棚に片付けてください。」	コップを洗い終わった。 コップを持って机と棚の間を行ったり来たりしている。	U先生:「Hちゃん、何か困ってる？」
"	「え〜っと…」(動きを止め沈黙)	U先生:「コップをどうにかするの？」
"	「うん。でも…。」(困った表情をする)	U先生:「T先生に、聞いてみたら？」
"	T先生に「これ(コップ)どうしたらいいですか？」	T先生:「あそこの棚、いつも片付けてる棚に自分で片付けてね。」
"	棚に近づき、恐る恐るコップを入れる。	T先生:「O.K!! また、ここ(棚)、覚えててね。」



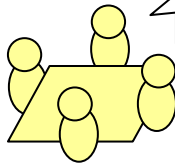
チャレンジ 3

記録をもとに支援を考える！

支援のアイデアを話し合っ、具体的な支援方法(かかわり方)を考えました。

困ったときに自分から言葉で伝えるのは難しいみたいね。

個別の指示があれば、新しいこともできているのは、いいことよね！



例えば…、言葉以外にも、Hちゃんが困ったことを知らせるサインを決めたらどうかしら？

最初は、サインを出してくれたら、すぐに対応してあげないといけないから、いろんな先生が協力してくれるといいよね。

こんな支援(かかわり)をしてみることにしました！！

- ・対象児Hと、サインの出し方について話し合う。
⇒困ったことがあれば、遠慮なく先生に言っていいことと、言葉で言えるなら言葉で、難しければ「サイン」で伝えてみないかと提案したところ、嬉しそうに了承する。「手を振りたい」と本児からの申し出があったが、挨拶との区別がつきにくいと指摘すると、「じゃあ別の手を振りたい」とのことであった。ピース(チョキ)で振ることを提案すると快諾する(「ホッとした」と2回言う)。
- ・全職員共通理解のもと、Hのサインを受け入れることにする。
- ・「サインをする」ということそのものに抵抗感を抱かないよう、サインを受けとめた際には、「Hからのサインのお陰で、すぐにHの困っていることについて分かることができた。良かった。」とのメッセージを伝える。



チャレンジ 4

支援を実施し、支援を振り返る！

支援を始めた後、ある日のHちゃんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児:Hちゃん 主任:U先生】

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[教室・午睡前の準備] 活動:パジャマに着替える際に、自分で、個人持ちタオル(事前に保育士が湯で絞ったもの)を使って、足を拭くことになっている。今の時期(夏期)は、汗の始末のこともあり、足を拭く前に体を拭くことになっている。	着替え終って絵本を読んでいる。 突然、慌てて立ち上がり、自分の鞆から、(洗濯物として片付けていた)体拭き用のタオルを取りだし、手に持って、ウロウロと歩き回る。	U先生:Hの様子に気付き、少しの間、様子を見守る。
" ←	U先生と目が合い、サイン(ピースサインを振る)を出す。	U先生:「Hちゃん、困っているのサインやね。どうかした？」
" ←	「今日、足だけじゃなくて、体も拭く日だったのを忘れたの。」	U先生:「そうやったんや。よく気が付いたやん。Hちゃんのタオル(指でタオルを指しながら)は、足を拭いて汚れているから、先生が新しいタオルを持って来てあげるから、Hちゃんのタオルを片付けて待っててね。」
" ←	「うん。」と言って、タオルを鞆に片付けに行く。	U先生:新しいタオルを「はい。新しいタオル持って来たよ。どうぞ。」と手渡す。
" ←	体を拭き、着替えを済ませ、タオルを返しに来る。「タオル、ありがとうございます。」	U先生:「はい、どういたしまして。今日、サインを出してくれたから先生、Hちゃんの困っていることがすぐに分かって良かったわ。」

- ・サインを初めて示したときは、サインを提示することに少なからず緊張したようであった。しかし、2回目以降からは、抵抗感なくサインを示すようになり、度々、「ホッとした」と言った。
- ・その後、サインなしでも、困ったことについて、申し出ることが徐々に増えてきた。2週間程過ぎた頃に、Hより「こうやって(ピースを振る)しなくても、困ったことが言えた」との報告があった。「良かったわ」と言うと、笑顔を見せていた。



取り組む行動を決める！

Iくん

4歳9ヶ月

ちょっと気になることは…

- ・順番が待てない。
- ・落ちついて話が聞けない。
- ・すぐに暴力をふるってしまう（叩く、蹴る、物を投げるなど）。
- ・こだわりが強い。
- ・指示で動けないことが多い。

ほくのできていることは…

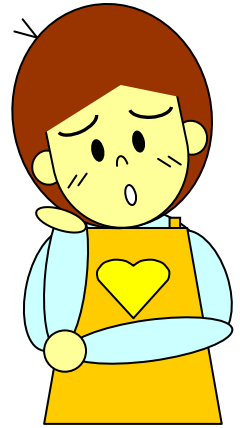
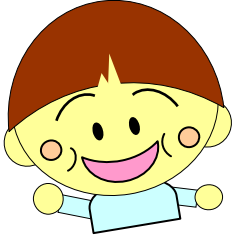
- ・集団遊びに入って遊ぼうとする。
- ・毎日の決められた生活リズムの中で身のまわりのことが自分でできる。
- ・保育士が側についていれば、いろいろな課題に取り組むことができる。

一番気になることは…

「すぐに暴力をふるってしまう

（叩く、蹴る、物を投げるなど）」こと。

叩いたり、蹴ったりせずに過ごしてほしいけど…。



行動のABCを観察し、記録する！

ある日のIくんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児:Iくん 担任:W先生】

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[教室・夕方・自由遊び] ・ゲーム遊び(すごろく) ・自分がしたくてゲームを始め、人数が増えてきた(6名) ゲームが始まる	色決めは待てた。 ゲームが始まるとサイコロが早くふりたくて、順番が待てず、友だちのサイコロを取ろうとする。	(対応なし) W先生:順番が違うことを伝える。
[教室・夕方・自由遊び] ・ゲーム遊び(すごろく) ・他児:1番でゴールする。 " ←	みんなのコマを全てスタートに戻す。 他児に頭突きをする。	他児:注意する。 W先生:Iくんを止めて、「他の友だちも最後まで行きたかったんよ」と話す。



チャレンジ 3

記録をもとに支援を考える！

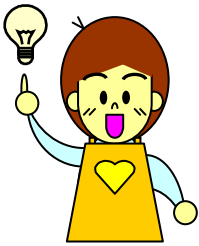
支援のアイデアを話し合っ、具体的な支援方法（かかわり方）を考えました。

待つことが苦手みたい。
待つ時間が短くなるような工夫はできないかしら…。

手が出る場面って、なんだか予測できそうよね。いつもなら手が出る場面で我慢できたら、そのことをほめたらどうかしら。

少人数なら、待ち時間が少なくなるんじゃない！

どれくらい的人数なら、待てるんだろう？



こんな支援（かかわり）をしてみることにしました！！

- ・小さな成功や頑張りをみつけてほめる回数を増やしていく。
- ・待つことが苦手なので、長く待つことがないよう、遊びの集団を小さくするように気をつけ（4人まで）、見通しがもてるようにする



チャレンジ 4

支援を実施し、支援を振り返る！

支援を始めた後、ある日のIくんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児：Iくん 担任：W先生】

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[教室・朝・うがい] W先生:Mちゃんに注意する。 Mちゃん:「ごめんなさい」と言ってやめる。 W先生:「ちゃんとあやまれてすぐやめてえらいね」とMちゃんをほめる。 "	うがい後、コップをタオルかけにガンガンぶつつけながら歩いている。 「ごめんなさい」と言ってコップをぶつけるのをやめる。 にこにこしながら席に戻る。	W先生:やめるように言う。 Mちゃん:本児のマネをする。 W先生:「Iくんもちゃんとあやまれて、えらかったね」とほめる。
[教室・午前中・着替え] 他児:フラフラ動いている本児に「じゃま」と言う。 "	「じゃま」と言われたことに腹立ち、他児をたたく。 自分のロッカーに戻り着替えをはじめる。 「できた!」と言って来る。 嬉しそうに笑顔になる。(この後、時々遅くなることもあるが、声をかけていると素直に指示をきく。)	W先生:本児と他児の間に入り、「Iくんのロッカーはどこやったかな?」と言う。 W先生「すごい!早く出来たね!」と大げさにほめる。

かかわり方を変えると、こんな場面が見られました！！

- ・小さなことでもほめることで、本児は自分が認められていることが嬉しく、努力しようとする姿が見られた。
- ・～したらこうなる等の見通しを本児が理解できるように伝えてやることによって、安心し、納得して、問題行動（待てない、たたく、ウロウロするなど）が少なくなった。

・友達をたたいてしまう前にその手を止めるというのは、ある程度予想できるのだが瞬発的で難しかった。

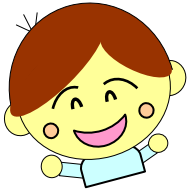


取り組む行動を決める！

Jくん
5歳9ヶ月

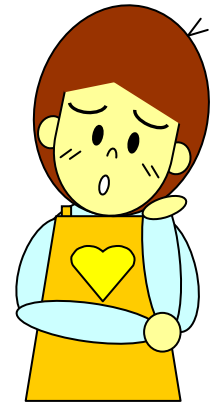
ちょっと気になることは…

- ・身体をじっとしていられない。話を聞くとときも、手、足が動く。
- ・身の回りのことが集中してできない。
→ どんな声かけをしたらいいのかパートの先生も悩んでいる。ほめてばかりでも、せかしてばかりでも。
- ・友達にやめて！と言われてもやめられない。



ほくのできていることは…

- ・声をかけてもらうと身の回りのことができる。
- ・友達といることを好むようになった（4才児の時はほとんど関心なく一人で遊ぶことが多かった）。
- ・積木遊びが好きで集中してよく遊ぶ。友達が寄ってきて一緒に遊んでも遊べるようになった。
- ・喜んで毎日保育所に登所してくる。



一番気になることは…

「身の回りのことが集中してできない」こと。

落ち着いて過ごせばもっとできることが増えそうなのに…。



行動のABCを観察し、記録する！

ある日のJくんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児：Jくん 担任：Y先生 パート：S先生】

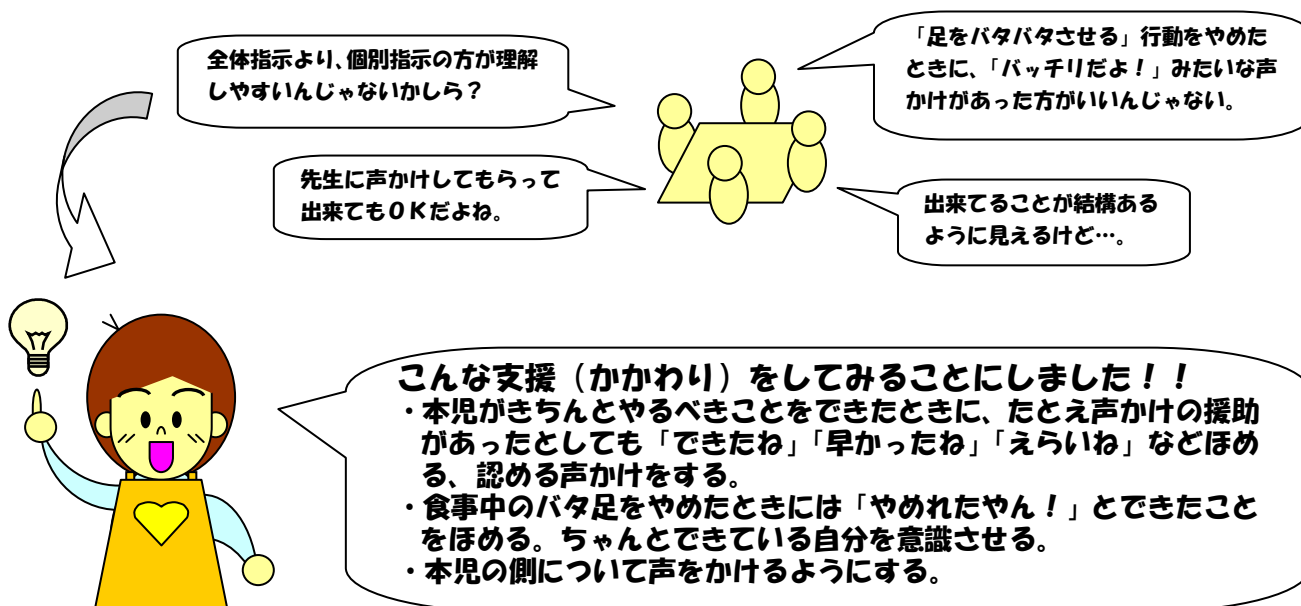
行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
【教室・給食】 くきかけは分からない	保育士の表情をうかがいながら足をドタバトと鳴らす。 ↓ 足を鳴らすのをやめる。 (この後も、集中力のとぎれた頃に、足をドタバタ鳴らすのをくり返す)	Y先生：反応しない(声をかけない、目を合わさない)。
【教室・給食後】 コップ、おはしの片付けのとき	なかなか片付けせずにバタバタとどきはねる。	S先生：「次にお布団ひくにはどうしたらいい」
" ←	「早く片付ける」と言いながら、足をバタバタと早くする。	S先生：「足バタバタしても早くならないよ」
" ←	やめておはし、コップを片付ける。	



チャレンジ 3

記録をもとに支援を考える！

支援のアイデアを話し合っ、具体的な支援方法（かかわり方）を考えました。



チャレンジ 4

支援を実施し、支援を振り返る！

支援を始めた後、ある日のJくんの行動を観察・記録してみると・・・

【対象児：Jくん 担任：Y先生】

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[教室・午前・プールの準備] (本児は朝からプールに入るのを楽しみにしている。) 他児：クラスで集まって座っている。 "	なかなか座らない。(気づいていないのかもしれない) ← 座る。	Y先生：「プールが始まるよ。座ろう」とJに個別に指示する。 Y先生：「一回しか言ってないのによく聞こえてたね。プールのときに大事なこともんあ」
[教室・給食] "	足をきちんとつけて食べている。 ← 「昨日いちばんに食べてんで」	Y先生：「うわーちゃんと足が下についているやん」
"	← しばらく良い姿勢で食事をする。	Y先生：「背中がのびて座っているからとちがう」

かかわり方をかえると、こんな場面が見られました！！

- ・職員が意識して声かけをするようになった。
- ・本児が落ち着いてきた。食事時の足バタバタも減ってきている。

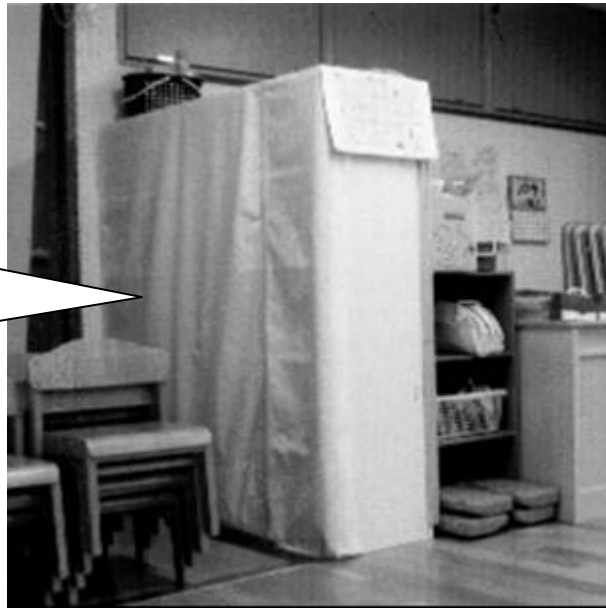


工夫紹介

【 教室内の工夫 】

工夫 1

「ロッカーの上に登る」という行動に対する取り組みです。
ロッカーを登りにくくするために、布でおおってみました。
布でおおってから、ロッカーに登ることがなくなりました。



工夫 2



「棚の上に登る」という行動に対する取り組みです。
棚の上に登ってはいけない場所であることを示すために、紙で作った花（落ちてもおぼつかないもの）を置いてみました。
花を置いてからは棚の上に登ることはなくなりました。

工夫 3

「部屋から出てベランダからおもちゃを投げる」という行動に対する取り組みです。
本児が落ち着いて遊べるコーナー（ままごとコーナー）を作りました。コーナーでは、他児が周りにおいても不安定にならずに遊べるようになり、ベランダに出てものを投げることも減ってきました。



【 教室内の工夫 】

工夫 4



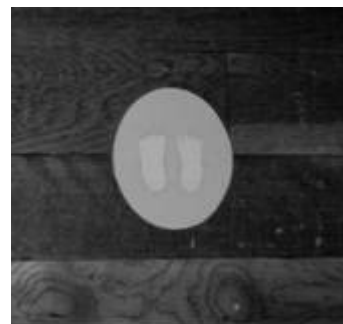
「友達とかかわって遊ぶ」という行動に対する取り組みです。

友達と遊べず、教室をうろうろしながら、片付けてあるおもちゃ等を落としていました。代替りの遊びとして、タオルで作ったトイレトペーパーを教室に用意するとこれを引っ張って遊ぶようになりました。また、出しきったタオルを他児が巻きなおすので、今では、友達と一緒にできる遊びになっています。

工夫 5



水道で順番が守れるように、並ぶ位置を視覚的に示しました。



【 望ましい行動を増やす行動の後の工夫 】

日常の活動への参加を促すために、できた活動の欄に○をつけて、できたことをほめる取り組みをしました。対象児が自分で○をつけたと言ったので、途中からは園児自身が○をつけました。

工夫 6

11月7日 (木)

あそびのじかん	○	あそびのじかん あそびました。
きょうしゅく	×	きょうしゅく かたづけました。
あひるね	○	
きせえ	◎	
あやつと かえりのあやうい	◎	
きとあそびの かたづけ	○	
クイズシート	○	

あそびのじかん	あそび	あそびました。
あそび		
きょうしゅく	きょうしゅく	きょうしゅく かたづけました。
あひるね	あひるね	
あやつと かえりのあやうい	あやつと かえりのあやうい	
あそび		
かたづけ	かたづけ	
すなばのクイズ	すなばのクイズ	

工夫 7



「『キー』と大声を出し、大泣きする」という行動に対する取り組みです。

「キー」と言わなかったら、カレンダーにシールを貼りました。取り組みを始めると「キー」と言うことが減ってきました。また、言わなかった日は自分からそのことを伝えに来てくれます。

【 スケジュールの工夫・絵カード 】

見通しが持てるように、1日の活動をスケジュールで示しました。

工夫 8



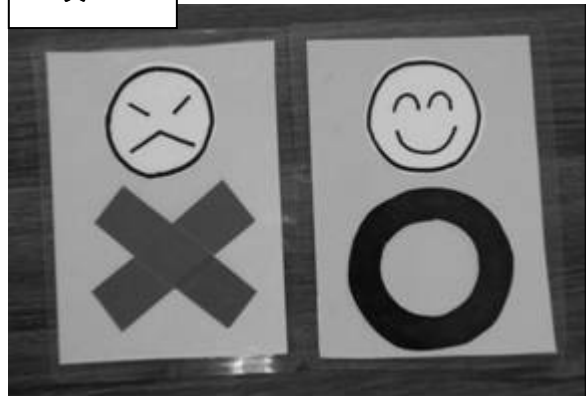
工夫 9



工夫 10



工夫 11



「してはいけないときに、水道で遊ぶ」という行動に対する取り組みです。
 水道にカードを提示する場所を作り、水を出していいときと、いけないときを「O」「×」カードで示しました。「×」のときは水道の栓を触らなくなりました。
 ⇒「×」だけでなく「O」のカードがあるのがいいですね♪

あとがき

「神戸市発達障害ネットワーク推進室」は、発達障害者支援法の施行（平成 17 年 4 月 1 日）にともない、準備期間を経て平成 19 年 10 月 1 日に開設されました。

「発達支援のためのチャレンジブック！」は、平成 19 年度から始まった「発達支援リーダー養成研修」の体験にもとづき作成されました。保育士の先生方がどのようにして、発達の気になる一人ひとりの園児に対応すればよいのか、というテーマのもとに、実践的な工夫を満載したガイドブックです。研修会に参加された保育士の先生は 100 名近くになります。チャレンジブックで明らかにされている支援の考え方が今後ますます地域に普及することが期待されます。

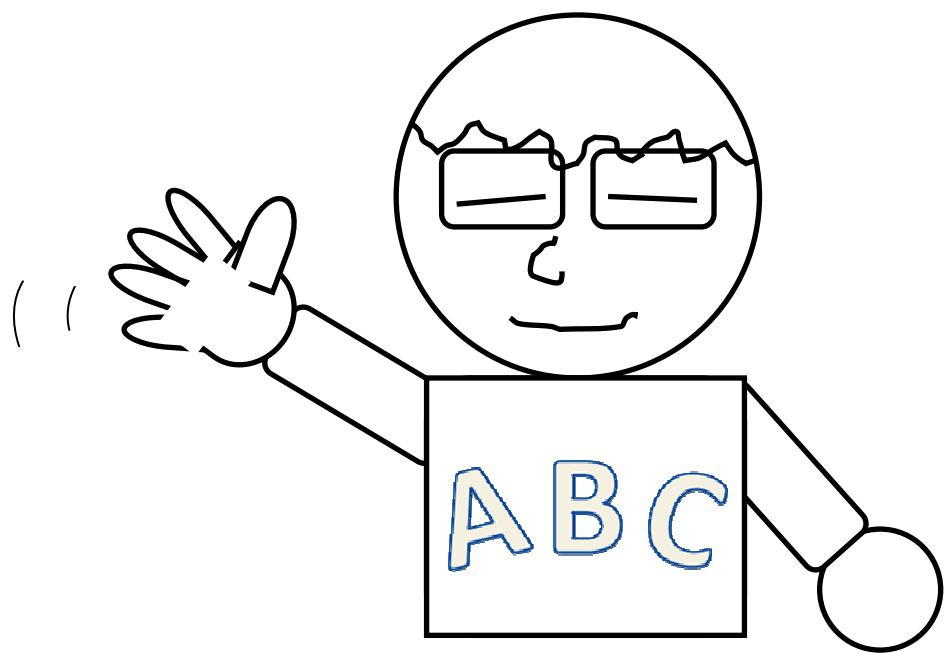
チャレンジブックの要は、行動の A B C 観察法です。B が行動です。A と C は行動の前後に見られる状況を指します。B の行動が、お絵描きの課題中に大声をあげて園児が部屋から出ていく、としましょう。このような行動の回数が少なくなり、園児が部屋でお絵描きができるようにするには、どうすればよいでしょうか。どのような状況で、どのような困った行動がみられ、そして困った行動の結果がどうなっているのかを、注意深く観察することにより、支援への有効なヒントが生まれます。チャレンジブックには園児の困った行動の A B C 分析が具体的に出ています。A B C 観察法を身につけておくことで、さまざまな状況において、保育現場で園児のニーズにそって支援ができます。

チャレンジブックにより支援者がエンパワーされることは、積極的にできることがたくさんあること、そしてその方法が明確であることだと思います。適切な行動を伸ばし、困った行動に対応する手立てがあるということです。日常保育における園児の行動の捉え方がチャレンジブックに段階的に説明されています。多数の保育士さんたちの声が反映されているため、事例も身近なものが多く、A B C 観察法が実際に使われたことを物語っています。現在、A B C 観察法を応用した発達支援は海外でも広く実施されていますが、その効果が世界の文献で実証されていることも付け加えておきたいと思います。

発達支援は、毎日の具体的な保育養育活動から始まります。一人でも多くの子どもが自分にできることが増え、先生方と子どもとのポジティブな交流が増えるようにチャレンジブックをお手元においていただくことを願っております。

関西学院大学文学部総合心理科学科教授

松見淳子



発達支援のためのチャレンジブック！

企画・執筆・編集

- 神戸市発達障害ネットワーク推進室スーパーバイザー
田中善大(関西学院大学)
- 神戸市発達障害ネットワーク推進室

平成 23 年 3 月発行

神戸市保健福祉局発達障害ネットワーク推進室

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町 1-3-1 TEL (078)382-2760

神戸市広報印刷物登録

平成 22 年度 第 385 号(広報印刷物規格 A-3 類)



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

*「発達支援のためのチャレンジブック！」は、神戸市発達障害ネットワーク推進室のホームページからダウンロードすることもできます。

<http://www.city.kobe.lg.jp/child/grow/network/siryo.html>